河陽新聞

熊本市南部地区市民の会
発行責任者　　村田幸博

市長との対話会がありました

１月21日夜、川尻公会堂に幸山市長を迎え自治協議会との対話集会が行われました。

川尻公会堂の畳みの大広間でヒザ付きあわせ開催された市長とのトーク集会

自治協議会トーク／川尻校区の内容

今回実施された校区民と熊本市長の意見交換会は、平成19年度から始められ今回で１４４回目を迎え、川尻校区では２順目となりました。

これは、各校区の自治協議会が窓口で、川尻校区では協議会メンバーに加え、川尻校区の各種団体からもオブザーバーとして多数参加され開催されました。

この、双方向での対話集会は、その目的を「校区のコミュニティーづくりを推進し、各校区の意見を市政に反映させると同時に、市を取り巻く現況や市行政の取り組みを伝えるために実施されている」との事です。

出席者は市から幸山政史市長・永目区長ら8名、川尻校区から約60名出席の中で行われました

川尻公会堂の柱時計を基準に、熊本市側の進行で進められました。

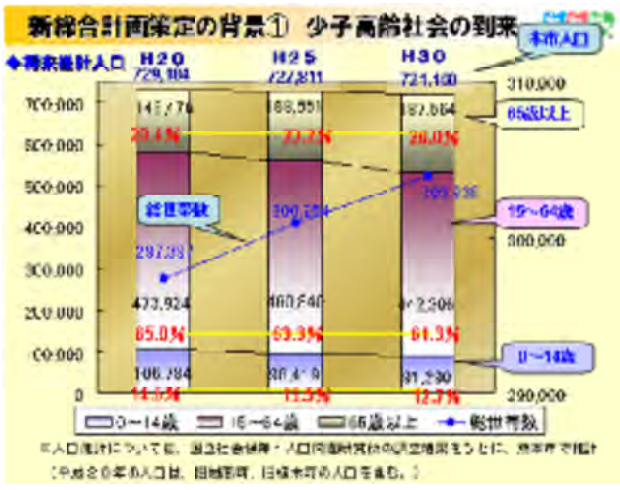
川尻公会堂の畳の間という独特の雰囲気の中、中村亮一（川尻校区自治協議会・自治会連合会）会長より「実り多き市長との対話へつながるように期待込められた」開会の挨拶ではじまり、所要時間90分の内訳は40分を幸山市長よりパソコンを使用しての熊本市の現況や市行政の説明があり、最後の30分をフリートークの形で進められました。

幸山市長のトーク概要

川尻校区は多くの市民が参加されビックリしています。熊本城マラソンも今年で３回目を迎え、川尻の古い町並みの中での応援は評価も高く感謝しています。今年は私もマラソンへ挑みますので宜しくお願い致します。

今、熊本市では「わくわく都市くまもとづくり」をテーマに平成21年から平成30年の10カ年計画で熊本市第６次総合計画を進めています。

計画の背景は、熊本市も全国と同様に少子高齢化が進むと同時に、世帯数は増え人口が減少すると予測されています。



川尻校区の人口比率は子供14・3％、また、高齢者率は25・8％と市の平均より3・3％と多く進んでいます。

また、新幹線が開通し熊本にもたらす影響や、アジアや日本・九州の中での熊本市の位置づけや、観光やコンベンションなどでの交流人口の増加をめざすと共に、九州の中心拠点となす中心市街地の整備など色々な視点から検討しています。

まちづくりでは４つの重点項目を掲げています。

◎「くらし　わくわく」
◎「めぐみ　わくわく」
◎「おでかけわくわく」
◎「出会い　わくわく」

詳しくは、市政だよりや熊本市のホームページを眺めて下さい。

川尻校区自治協議会からの要望

永目南区区長トーク概要

南区のまちづくりビジョン描かれ、歴史文化・自然環境を活かした南区づくりが進められ、川尻が南区をリードされ感謝しています。

先ず南区を「知る」「集まる」「始める」「伝える」から進めています。

今後は南区の特徴である緑川や加勢川などの川を活かし、会話と交流の行き交うネットワークづくりを目指す事を考えています。。

中村亮一会長から川尻校区の代表質問

校区自治協議会は熊本市行政との一括した窓口と認識している。しかし、市の行政対応はバラバラで、地域からの相談や要望の窓口を整備してほしい。

●幸山市長の回答

自治協議会は校区内の横の連携、また、１つの組織や団体で出来ない問題を連携で取り組む校区の代表組織と考えている。行政対応の具体法は永目南区長からも提示します。

●永目南区長の答弁

本庁から直接の場合もありますが基本は南区町づくり交流室が窓口です。

公会堂整備に対して村田幸博南部市民の会

南部市民の会は、旧建設省の加勢川改修に対し地域住民の要望を伝えるために昭和61年に始まり、町並みや景観に関し専門部会を設けている。そこで、古川保部会長より川尻公会堂整備に関して質問をお願いします。

古川　保　景観部会長

川尻公会堂は町民の愛着が強く多くの方が心配されています。

川尻公会堂の耐震診断がなされたとの事ですが、コンクリート・鉄骨等で補強された川尻公会堂に変貌する恐れもあります。

そこで今後、住民との対話が必要ではないかと考えます。市や市長のお考えをお聞かせ下さい

●幸山市長の回答

川尻公会堂問題が出てくるのではないかと思って来ました。

川尻公会堂の調査結果も近日中に出来き上がり、また、地元からの要望もお聞きしています。

市も地元川尻の要望に沿った考えで自治協議会を窓口に。意見交換を重ねながら予算や方法も含め検討し、歴史ある川尻公会堂を残して行きたいと考えています。

歴史案内板や駐車場整備に関して、河原良吉民生委員長

1月3日に開催された、60年間も続けられている川尻公会堂での成人式に永目南区長も御臨席いただきましたが、この様に、この公会堂は歴史もありますが町民の想い出が込められている事も配慮してほしいと思います。

また、川尻公会堂周辺は米蔵をはじめ船着き場などの史跡から歴史や由緒ある地名が残されている。そこで、案内板の設置や大型バスも対応できる駐車場の整備が出来ないでしょうか？

●幸山市長の回答

新幹線開通の時に川尻エリア指定がなされ案内板整備がなされたと思う。

米蔵も平成30年に向け整備が進められ、その中で案内板も駐車場問題も検討されて行くものと考えます。。

川尻精霊流しに関して、村崎重興川尻商店街会長

川尻精霊流しが400年間も続けられています。

以前は熊本市からの支援もありましたが、近年はゼロとなり、伝統ある精霊流し運営がきびしくなっています。以前のように市から支援をお願いできないものでしょうか？

●永目南区長より回答

行政は事業の立ち上げ時には支援しますが維持運営に関しては、今後、コンベンション協会など支援策を考えてみます。

町づくり支援に関して、益本武士青年協議会員

川尻の青年協議会を高く評価していただき感謝申し上げます。町づくりに対し助成金でなく継続可能な事業の予算化ができないものでしょうか？

●幸山市長の回答

行政でなければ出来ない事業もあるが、市民活動で行える内容であれば今後は検討して行きたい。

編集後記

今回の「市長と自治協議会トーク集会」の紙面を描くにあたり、この他にも多くの自治協議会メンバーからも、オブザーバー参加からも活発な意見交換がくりひろげられました。

この限られた紙面で文字に出来なかった事を深くお詫び申し上げます。

２月～３月は川尻月間が展開されます。校区の皆さまのご参加をお待ちします。